

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	平成29年度第1回武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開 催 日 時	平成29年8月29日(火) 午後2時～午後5時
開 催 場 所	市役所3階 301会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：委員7名 欠席者：なし
議 題 等	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員委嘱書の交付 2 市長挨拶 3 委員自己紹介 4 事務局紹介 5 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱について (2) 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会に関する運営要領について 6 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会長及び副会長の選出について (2) 平成28年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について (3) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	<p>議題1：会長は橋爪委員、副会長は嵯峨委員に決定する。</p> <p>議題2：他に意見があれば、メール等で事務局にいただく。推進委員会の意見をまとめて、主管課にフィードバックする。 推進委員会における評価の方法について、事務局で検討し、今年度中に推進委員会にお示しする。</p> <p>議題3：特になし。</p>
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員委嘱書の交付 市長より各委員に委嘱書の交付を行った。 2 市長挨拶 3 委員自己紹介 4 事務局紹介 5 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱について (事務局) 資料1「武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱」について説明 (2) 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会に関する運営要領について (事務局) 資料2「武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会に関する運営要領」について説明 6 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会長及び副会長の選出について (事務局) 会長・副会長の選出については、設置要綱第4条第1項の規定により委員の互選で選任する旨を説明 (委員) 会長に橋爪委員、副会長に嵯峨委員を推薦する。 —異議なし—

	<p>(2) 平成28年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について</p> <p>(事務局) 平成28年度地方創生加速化交付金(2次募集)に係る事業実施結果(「武蔵村山の魅力づくり推進事業～魅力教え隊及び魅力マイスター制度の整備～」の概要、KPI実績値等)について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(委員) 魅力マイスター制度及び専用ホームページについては、平成28年度単年度の実施か。</p> <p>(事務局) 平成28年度に制度構築及びホームページを作成しており、平成29年度以降も運用していく。平成28年度は秘書広報課、平成29年度からは観光課が主管となる。</p> <p>(委員) 初動で制度づくりをして、引き続き継続していくということか。</p> <p>(事務局) そのとおりである。魅力教え隊及び魅力マイスター制度は基本として継続していき、今後は事業が付加され、変わっていく可能性がある。</p> <p>(委員) 事業費が1千万円程度かかっているが、本交付金がなくなったとしても継続していけるのか。費用対効果を勘案した上で継続していくのか。</p> <p>(事務局) 本交付金は事業費の10分の10が交付されたが、今年度以降は地方創生推進交付金を活用して、200万円の事業費の2分の1の交付となる。</p> <p>(委員) モニターツアーの参加者について、市内外の方の割合はどのくらいか。</p> <p>(事務局) 参加者152人中49人が市内在住者、未記入18人を除いて、約3分の1が市内、約3分の2が市外の方であった。市外で最も多かったのは多摩地域の方である。</p> <p>(委員) KPIの指標①「民間消費における支出流出率順位」については、実績値が平成25年の数値なので、ここでどうこう言えるものではない。指標③「市外からの休日の滞在人口」についても、引き続き推移を見ていく必要がある数値である。指標②「『魅力教え隊』発信の情報による来訪率」については、取組の仕方によって変わってくる数値だと思うが、5%を目標にしていた数値が、実績として16.2%だったというのは高いと思う。ツアーを実施することと「魅力教え隊」の発信というのは連動するものなのか。ツアーにおいて、参加者に発信してもらうような呼びかけをするものであったのか。</p> <p>(事務局) モニターツアー開始前に「魅力教え隊」を創設した。それに加え、モニターツアーに参加していただいた方には「魅力教え隊」隊員になっていただき、その方々が発信した情報を見て、次のモニターツアーに参加していただいた方がどれくらいいるかをアンケート集計した結果である。</p> <p>(委員) 当初の目標の5%が低すぎたのかもしれない。アンケートの取り方もモニターツアーの参加者に限定すると必然的に高くなる。16.2%が高いか低いかは、当初の目標を基準に見るのではなく、ツアー参加者の方にもっと発信していただければもっと上がるだろう。</p> <p>(事務局) アンケートの取り方や指標の捉え方によっては、違うものが取れたと思うが、今回の事業においてはツアーの参加者に限定してアンケートを実施した。</p> <p>(委員) アンケートで「知人の紹介・口コミによって情報を知った」と</p>
--	---

	<p>いうのはざっくりして、SNSを見たのか、人から聞いたのか内訳が分からない。アンケートの他の選択肢はどうなっていたのか。</p> <p>(事務局) モニーツアーの情報をどこで知りましたかという項目に対する選択肢は、知人の紹介・口コミのほかに、専用ホームページ、チラシ、ポスター、市ホームページ、市報である。</p> <p>(委員) SNSが入っていない。SNSは口コミに入らないのではないか。また、SNSでも何のSNSかを聞いた方がよかったのではないか。</p> <p>(事務局) そのとおりだと思う。</p> <p>(委員) 「魅力教え隊」の発信によるものなのかどうか、このアンケートでは分からない。アンケートの取り方を精査した方がよい。</p> <p>(委員) 数値の根拠が少ない。市公式フェイスブックの「いいね！」件数が600件程度で少ない。そこにハッシュタグを付けて発信しても何人が見ているのか疑問である。効果測定の根拠が見えないのに、16.2%で効果があったと言い切れるのか。例えば、「魅力教え隊」がツアーの情報を何件発信しているのか、それに対して「いいね！」が何件付いているのかなど、実数で測定した方がよいと思う。今の指標だとあいまいである。</p> <p>(委員) 「魅力教え隊」は「#MM教え隊」を付けてSNSで発信をするが、あまり普及していないように見受けられる。同じ人の発信が目立ち、増えている感じではない。ただし、「魅力教え隊」のポイントとして、SNSに限定せず、口コミでの情報発信もOKとしているので、難しいところである。SNSでの発信の実数測定というのは必要だと思う。また、講師を務めた魅力マイスターの方のお話では、モニーツアー中にSNSで発信していた参加者はほぼいなかったという印象だったようである。</p> <p>(事務局) モニーツアー中に発信していただいた参加者は確かに少なかったようである。ツアーの最後には呼びかけをしていたが、最初から呼びかけをしていたら、もっと違ったかもしれない。</p> <p>(委員) 「魅力教え隊」は何人いるのか。</p> <p>(事務局) 平成28年度末時点で304人である。本事業を実施する前から「魅力教え隊」隊員はおり、ツアー参加者は皆「魅力教え隊」隊員になっていただいている。</p> <p>(委員) 「武蔵村山市」は「魅力教え隊」の一員に含まれているのか。</p> <p>(事務局) 広報の職員も「魅力教え隊」隊員になっているが、市としての発信は別に行っている。</p> <p>(委員) 本事業のほかに、市の魅力を発信する方法としてどのようなものが考えられるか。</p> <p>(事務局) どうしたらもっと効果的・効率的にシティプロモーションができるかについては、検討しているところである。今年度中に広報戦略の策定を予定している。</p> <p>(委員) 本事業のKPIは今年度、来年度も計測するものなのか。</p> <p>(事務局) このKPIについては、平成28年度実施の地方創生加速化交付金に係るものであるため、今回限りである。</p> <p>(委員) 今年度以降、地方創生推進交付金を活用して事業を継続するようだが、KPIは別であるのか。</p> <p>(事務局) 「民間消費額（地域内ベース）」、「市以外からの『#MM教え隊』SNS発信数」、「市外からの休日の滞在人口」をKPIに設定している。</p> <p>(委員) 二つ目のKPIについては、その方が分かりやすい。</p> <p>(委員) 事業費はどのくらいか。</p> <p>(事務局) 200万円を予定している。地方創生加速化交付金を活用した</p>
--	---

	<p>平成28年度は、制度構築等の委託費が大きかったが、今年度はほとんどツアー実施のための費用である。</p> <p>(委員) ツアーは大規模なものだったのか。</p> <p>(事務局) 大型バスを使用し、現地集合ではなく、立川駅と武蔵村山市役所を集合場所として、市内各所を回った。</p> <p>(委員) 本事業について、魅力マイスターになっている人もトピックスも今までと変わらない印象である。武蔵村山市の魅力が全く広がっていない。市民全体への広がりが見えない。特に、年齢層が高めの人向けの印象があるので、高校生がこのモニターツアーに行きたいとは思わないのではないかと。新しい販路開拓、市外の人の目が活かせていない。このようなツアーに興味があるのは年配の方が多いだろう。武蔵村山市といたらこれ(うどん、みかんなど)といった印象がついてしまっている。それはそれとして、伝統文化として大切にしていけるべきものであるが、せっかくお金を使って新しいことをやろうというのに、またこれかという印象である。もう少し違う切り口で魅力を伝えていくという方法はないものかと思う。</p> <p>(事務局) 本事業は、秘書広報課が所管としてスタートしているので、どちらかという今ある市の魅力を外にどう伝えていくのかを主として行っていた。今年度から観光課が所管となったので、今度は観光事業として中身が多少関わってくるかと考えている。</p> <p>(委員) ツアー内容が同様になるのが目に見えている。</p> <p>(事務局) 観光課では他市とも連携して、狭山丘陵の観光事業を始めている。またそこから違う切り口での取組の可能性はあると思う。</p> <p>(委員) 狭山丘陵であったら、自転車やランニングなど、見せ方次第である。それに加え、トレンドに乗った発信力のある人に発信してもらうことが重要である。</p> <p>(会長) 「外部有識者からの意見」としては、今出た意見をまとめるとして、「事業の評価」としてはどうか。</p> <p>(委員) 完成したホームページは立派である。このホームページにたどり着く若い人がいれば、興味をもつ人もいるのではないかと。そのようなおしゃれなものである。たしかに武蔵村山市といえばこれというようなおなじみのものであるが、みかん狩りができるなら行ってみようと考える小さいお子さんがいるお母さんもいるかもしれない。専用ホームページを今後うまく活用していけるのであれば、効果はあったのではないと思う。</p> <p>(会長) 専用ホームページの来訪者数が分かるとよい。</p> <p>(委員) どこの市の人が見ているか、見ている人の年齢層なども分かるはずである。</p> <p>(委員) 「事業の評価」は費用対効果ではなく、効果があったかなかったかの判断か。</p> <p>(事務局) そのとおりである。長期間で見えていかないと効果は分からない。</p> <p>(委員) 効果がなかったとも言い切れないが、現段階のKPIの数値だけでは判断しかねる。今後の指標の設定の仕方等の改善を要望しつつ、効果があったとしたらよい。</p> <p>(事務局) 主だった意見を事務局にて集約して、会議録と一緒に委員に提示させていただくという形ではどうか。その後、いただいた意見を反映するのは、会長と事務局に一任いただきたい。</p> <p>(会長) KPIを変えるわけにもいかないもので、事業の評価としては効果があったとして、意見は事務局でまとめる形とする。</p> <p>(事務局) 平成28年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進</p>
--	--

捗状況について説明

—質疑・意見等—

(委員) 多摩都市モノレール延伸の促進において、市が行っている事業がとても少ないように思う。新しく実施するものはあるのか。

(事務局) 今年度については、モノレール基金の積立、フォトコンテスト、モノレール関連グッズの作成・販売等を行う。

(委員) 乗合タクシーの運行と市内循環バス路線の検討について、市内循環バスは利用者が少ない印象であるが、乗合タクシーに全て移行してもよいのではないのか。両方ある必要性はどこにあるのか。

(事務局) 市としては、両方とも必要であると考えている。市内循環バスについては、以前は残堀・伊奈平地区でも運行していたが、運行ルートの見直しにより運行を取りやめ、代替交通として登録型の乗合タクシーの運行を開始した。よって、乗合タクシーに集約をするということは考えていない。時間帯などによって利用者数はかなり異なる。

(委員) 市内循環バスの一便あたりの年平均輸送人員が5.45人は少ないと感じた。

(委員) 乗合タクシーとは何なのか。

(事務局) 市内循環バスが通っていない地域を補完するために乗合タクシーが誕生した。事前予約をして、市内の主な公共施設などに行くものである。

(委員) 武蔵村山市は車がないと基本的にどこにも行けない。

(事務局) 高齢化で車のない世帯も増えているので、そういった意味でもバスを補完する乗合タクシーは必要と考える。

(委員) 資料4の表の書き方として、具体的施策の部分の「28年度の取組」「29年度以降の予定・計画」「目標達成への課題とその対応」が記載されていない。主な事業に同じKPIが設定されているものであればよいが、具体的施策のみで設定されているKPIがある場合(資料3ページの「企業誘致制度に基づく事業所の新規指定」、4ページ「認定農業者数」など)には、取組や予定を記載しなくてよいのか。

また、全体的に見ると、明らかに目標値達成に向けて進捗が遅れているものがある。資料11ページの「小・中学校特進講座」について、31年度80%の目標値に対して、28年度は25.8%と減ってしまっている状況、「部活動支援事業の実施」においても、入部者数を増やしていきたいのに減ってしまっている状況である。それにもかかわらず、「29年度以降の予定・計画」に「平成28年度と同様に実施予定」とある。担当課と調整もあると思うが、目標値達成に向けての何かしらの努力、取組の改善が必要なのではないか。いくつかそのような事業が見受けられる。

(事務局) 一点目については、具体的施策のKPIの設定は、一事業に係るものではなく、列挙している主な事業を実施して全体として達成するものであるという考えである。二点目については、いろいろな取組を行っているが、細かい部分を書きづらいということもあると思う。

(委員) 「同様に実施」とすると、結果が出てないのに、それまでと同じことを続けるという見られ方をしてしまうのではないのか。プラスアルファの努力はしないのかという疑問を抱かせてしまう。実際に現場で何もしていないことはないと思うので、それを書いてほしい。

	<p>「認定農業者数」についても、主な事業に挙げられている3事業以外の取組があれば、「28年度の取組」の欄に書いた方がよいのではないか。</p> <p>(事務局) 記載する余地はあると思う。</p> <p>(委員) 観光農園のPRや体験型市民農園を開設したから、認定農業者数が増えるということにはならないと思う。事業に挙げられているのは、市民と農業を近付けるために実施するものだと思うが、経営者としての認定農業者を増やすというのは取組が違うのではないか。たとえば、農業者の後継者問題の対策を事業とするのであれば、施策のKPIが「認定農業者数」でも納得できる。または、施策のKPIに市民が農と触れ合う機会が増加したと思う人の割合などが入っているのが望ましい。「企業誘致制度に基づく事業所の新規指定」については、主な事業に企業誘致に係るものが挙げられているので、説明いただければ理解できるが、「認定農業者数」については、その項目に説明が何もないと、主な事業からは読み取れない。記載について、検討いただきたい。</p> <p>(事務局) 総合戦略策定時にKPIを設定しているので、KPIを変更するとなると総合戦略の改定をする必要がある。御指摘のとおり、当初のKPIの設定に多少問題があると思われる。来年度に平成29年度末の進捗状況を御確認いただく際には、行った取組や今後の予定を記載した形でお示しするようにする。</p> <p>(委員) 施策のKPIの取組内容などが書かれていないと、何もしてないかのような印象を受けてしまう。せっかく数値目標が設定しづらい事業にもKPIを設定しているのに、取組内容や目標値達成への努力・工夫などを職員が意識することによって、昨年度の事業の見直しから改善につながるのではないかと思う。</p> <p>(事務局) おっしゃるとおり、目標を設定しなければやってきた事業を振り返る機会がない。市民のためによりよくしていきたいと考えているので、手段を講じていきたい。</p> <p>(委員) 施策のKPIが事業と連動していないものについての対応及び実績値が現況値よりも下がっているものについて、それに対する対策をどうするのかを示してもらいたいという推進委員会からの要望である。この状態だと評価をするにできない。</p> <p>(委員) 進捗管理は、「目標値達成への課題とその対応」をしっかりと出して、それに対して動いているかをチェックしていくものではないか。しかし、今書かれているものの中には「課題」も「対応」も書かれていないものや予定を書き忘れてしまっているものもあり、全体的にあいまいになってしまっている。目標を達成しているものについてはまだしも、大幅に目標から遅れてしまっているもののうち対応策が書かれていないものについては、あと2年で目標達成までどうするのかという疑問がわく。「目標値達成への課題とその対応」の部分を大事にしてほしい。もし修正する機会があるのであれば、この項目を精査していただきたい。</p> <p>(委員) 「目標値達成への課題とその対応」は、もう少し工夫していただけると、職員が頑張って取り組んでいただいている気持ちが伝わるかと思う。また、実績値が現況値よりも下がってしまったものもそうだが、目標値を達成したものについても、せっかく達成しているのだから、同じことをすると書くだけではなくて、効果があったから継続するなど書き方も変えた方がよい。</p> <p>(委員) 育児支援について、総合戦略には掲載されていないが、医療費の助成の件である。他の自治体では中学生まで無料のところも</p>
--	---

	<p>あるが、武蔵村山市では小学校1年生からかかる。所得制限があつて、ある程度所得のある家庭は小学校1年生から大人と同じだけの医療費がかかる。そういったことを総合戦略に盛り込むことはできないか。</p> <p>(事務局) 医療費助成においては、意見が分かれるところである。23区では所得制限はなく、26市では所得制限があるところとないところがある。</p> <p>(委員) 「目標値達成への課題とその対応」の欄は、課題と対応をしっかりと分かるように書いていただきたい。それがきちんとできる期限でよいと思う。</p> <p>(事務局) 平成29年度末の進捗状況をお示しするときには、その部分是对应する。</p> <p>(委員) 今回の資料について、本会議の直前にいただいたので、資料で修正した方がよいと思うところがあつても時間的に対応できないと思った。資料の事前送付と会議までの間をもう少し空けてもらうことはできないか。</p> <p>(事務局) 本資料は市長を本部長とする内部の本部会議に諮った上で、本委員会でお示ししているものである。来年度以降、本日いただいた意見を基に各主管課から集約した各事業の進行状況についてチェックをし、目標達成への課題及び対応が分かるような形にしたい。</p> <p>(委員) 今回の指摘事項は改善されると思うが、他の事項について資料送付が会議の直前だとすぐに対応できないということになってしまう。より早いタイミングで推進委員が資料について意見を述べる機会をつくることはできないか。</p> <p>(委員) チェックのみで検証がない。</p> <p>(事務局) 本部会議以前に推進委員会に資料を提示することができないので、本部会議と推進委員会を年に何度か開催して、やり取りするような形にするしかないと思う。</p> <p>(委員) そもそも推進委員会の開催目的や推進委員会の意見がどこにどう反映されるのか。推進委員会は進捗状況一覧を確認してそれを承認する役割なのか。</p> <p>(事務局) 推進委員会からいただいた意見は、主管課にフィードバックする。意見によって、事業を変える場合もあるし、参考にさせていただく場合もある。必ずしも意見が反映されるものではないが、主管課にはいただいた意見を戻している。</p> <p>(委員) 総合戦略は相当のボリュームがあるので、これを年1回の会議で確認するのは難しい。</p> <p>(委員) 進捗状況確認のための資料が見つらい部分もある。他市では、推進委員会からの評価欄が資料に入っていて、各委員からABCなりの評価をもらい、各事業に対する意見を入れていくような形になっているところもある。そのようにすれば時間短縮にはなるのではないか。来年度以降のやり方が大事である。</p> <p>(委員) 目標値に近づいておらず、むしろ下がってしまっても何の反省もなく、そのまま行くというのは不安が残る。結局どうしているのか分からない。</p> <p>(事務局) たとえば、事前に推進委員会各委員に事業の進捗状況一覧を提示して、ABC等の評価をしていただき、事務局で集約をして、平均的な評価を出すことはできる。ただし、事業数が多いので、委員の負担も大きくなってしまう。会議の場で1事業ずつ確認していく形では時間が足りない。</p> <p>(委員) 示されている情報だけでは評価ができない。事業内容について聞かないと分からない。</p>
--	--

	<p>(事務局) 行政評価委員会のように、各事業について個票を作成し各主管課から説明を受けて、何日もかけて行うことはできない。推進委員会のやり方について、本日いただいた意見を基に事務局で検討させていただく。</p> <p>(委員) 推進委員会を承認だけの会議にはしたくない。</p> <p>(事務局) 後日、推進委員会各委員からメール等で意見をいただき、それを主管課にフィードバックする。今回についてはそのような形とし、来年度以降については評価の方法を検討する。</p> <p>(委員) せっかくこのように集まって話す機会を設けており、この場で意見を出し合い、その意見によって出てくる意見もある。承認ありきの会議ではなく、活発な意見が出る会議にしたいと思っている。1事業ごとに検証していると時間が足りないのので、基本目標ごとなど大きなテーマを設けて話し合うのはいかがか。</p> <p>(事務局) それは可能であると思う。今回については、いただいた意見を主管課にフィードバックする。来年度以降は「目標値達成への課題とその対応」部分について、分かりやすく記載するようにする。評価の方法については、事務局にて検討し、改善案を今年度末までにお示しして、それに基づいて来年度の進捗管理を行うことではいかがか。</p> <p>—委員承諾—</p> <p>(3) その他</p> <p>(事務局) 平成29年度実施の地方創生関連交付金活用事業について、地方創生拠点整備交付金で村山温泉「かたくりの湯」の施設整備事業を行う。現在工事中であり、今年度末にはリニューアルオープン予定である。また、地方創生推進交付金で「武蔵村山の魅力づくり推進事業」を引き続き実施している。今年度もモニターツアー等を実施する予定である。</p>
--	--

会議の公開・非公開の別	<p><input checked="" type="checkbox"/> 公開 傍聴者： <u>0</u>人</p> <p><input type="checkbox"/> 一部公開</p> <p><input type="checkbox"/> 非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p>()</p>
-------------	---

会議録の開示・非開示の別	<p><input checked="" type="checkbox"/> 開示</p> <p><input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：)</p> <p><input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：)</p>
--------------	--

庶務担当課	企画財務部 企画政策課(内線：374)
-------	---------------------

(日本工業規格A列4番)